Systematic Home Economics Contents for Learning in Elementary School and Junior High School 2

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-03
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/651

小・中学校家庭科における学習課題の系統性(2)

—小・中学校の実施状況の調査より—

綿引　伴子・大浦　美雪*

Systematic Home Economics Contents for Learning in Elementary School and Junior High School (2)

—Survey of Condition of Learning in Elementary School and Junior High School—

Tomoko WATAHIKI & Miyuki OURA

はじめに

本研究の目的は第１報[1)]と同じであり，小・中学校の内容を系統だてたものにするために学習の実態を明らかにし，中学校の学習内容が小学校の学習を発展させたものになりうる学習課題を探り，その指導法を検討することを目的とする。第１報においては，小・中学校の学習指導要領と指導書，教科書の内容を比較分析し関連性や系統性について検討した。本報においては，小・中学校での学習の実態について教師を対象に調査し，第１報の結果と対比させながら検討し，それらをもとに中学校における学習課題とその指導法について提案したい。

方　法

実際に小学校，中学校で家庭科を指導している教員が，どのような学習内容に重点をおき指導しているのか質問紙調査を行った。その結果をもとに，第１報で得られた学習指導要領・指導書や教科書の比較分析の結果と対比させながら，小・中学校の関連性について検討する。

またこれらの結果をもとに中学校における学習課題とその指導法を提案する。

調査対象者は1996年度金沢市内公立（市立，国立）の全小学校61校及び全中学校25校で小学５年生，６年生，中学１～３年生の家庭科の授業を担当した教員である。小学校は各校各学年１名ずつ，中学校は各学校１名ずつ（ただし専科のみとする）とした。回収数は５年生は50校（82.0%），６年生は44校（72.2%），中学校は家庭科専科のいない学校５校を除く20校中18校（90.0%）であった。

調査項目は，1996年度金沢市内で使用された教科書「わたしたちの家庭科５」「わたしたちの家庭科６」(開隆堂)，「新しい技術・家庭上・下」(東京書籍）の学習内容を被服領域，食物領域，家族・家庭生活領域，住居領域ごとに洗いだし，５年生93項目，６年生78項目，中学校117項目とした。それぞれの項目ごとに「特に重点をおいた」「重点をおいた」「あまり重点をおかなかった」「重点をおかなかった」「しなかった」の５段階のいずれに適するかを答えてもらった。

また行った実習内容についても回答してもらった。

対象者の属性は，小５と小６の「教職歴」と「家庭科担当年数」をみると，「家庭科担当年数」は１年から５年までがほぼ半数を占めているが　教職歴は11年から20年が半数を占めている。このことは小学校では５～６年に１度家庭科を教えていることになり，だいたい担任が家庭科を教えているのではないかと推察される。中学校は31歳から40歳までが全体の50%を占め，30歳以下が5.6%と極端に少ない。

結果と考察

Ⅰ　学習内容への重点のおき方

平成10年９月16日受理

*　金沢市立高尾台中学校

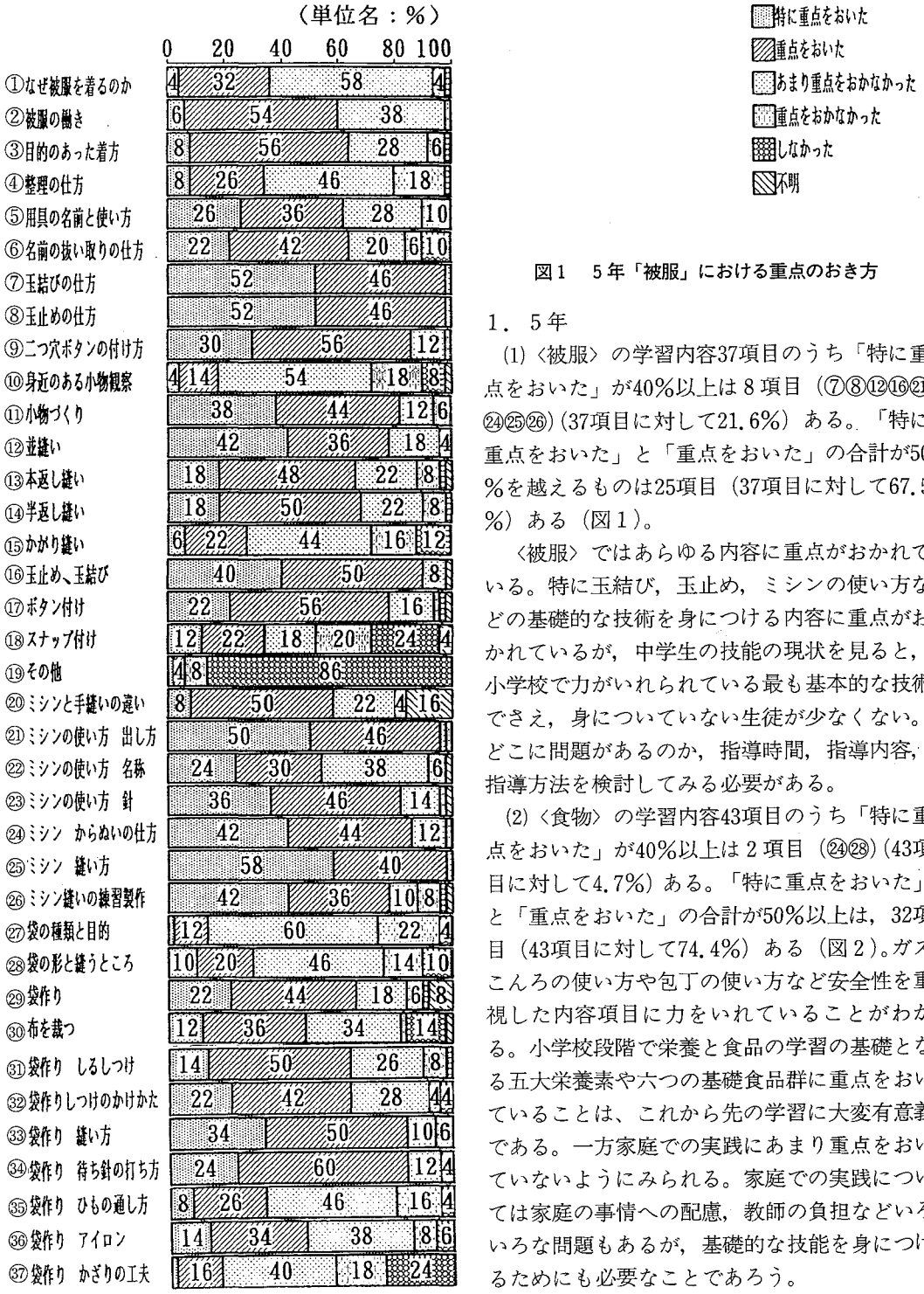


図1　5年「被服」における重点のおき方

1．5年

(1)〈被服〉の学習内容37項目のうち「特に重点をおいた」が40％以上は8項目（⑦⑧⑫⑯㉑㉔㉕㉖）(37項目に対して21.6％）ある。「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が50％を越えるものは25項目（37項目に対して67.5％）ある（図1）。

〈被服〉ではあらゆる内容に重点がおかれている。特に玉結び，玉止め，ミシンの使い方などの基礎的な技術を身につける内容に重点がおかれているが，中学生の技能の現状を見ると，小学校で力がいれられている最も基本的な技術でさえ，身についていない生徒が少なくない。どこに問題があるのか，指導時間，指導内容，指導方法を検討してみる必要がある。

(2)〈食物〉の学習内容43項目のうち「特に重点をおいた」が40％以上は2項目（㉔㉘）(43項目に対して4.7％）ある。「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が50％以上は，32項目（43項目に対して74.4％）ある（図2）。ガスこんろの使い方や包丁の使い方など安全性を重視した内容項目に力をいれていることがわかる。小学校段階で栄養と食品の学習の基礎となる五大栄養素や六つの基礎食品群に重点をおいていることは、これから先の学習に大変有意義である。一方家庭での実践にあまり重点をおいていないようにみられる。家庭での実践については家庭の事情への配慮，教師の負担などいろいろな問題もあるが，基礎的な技能を身につけるためにも必要なことであろう。

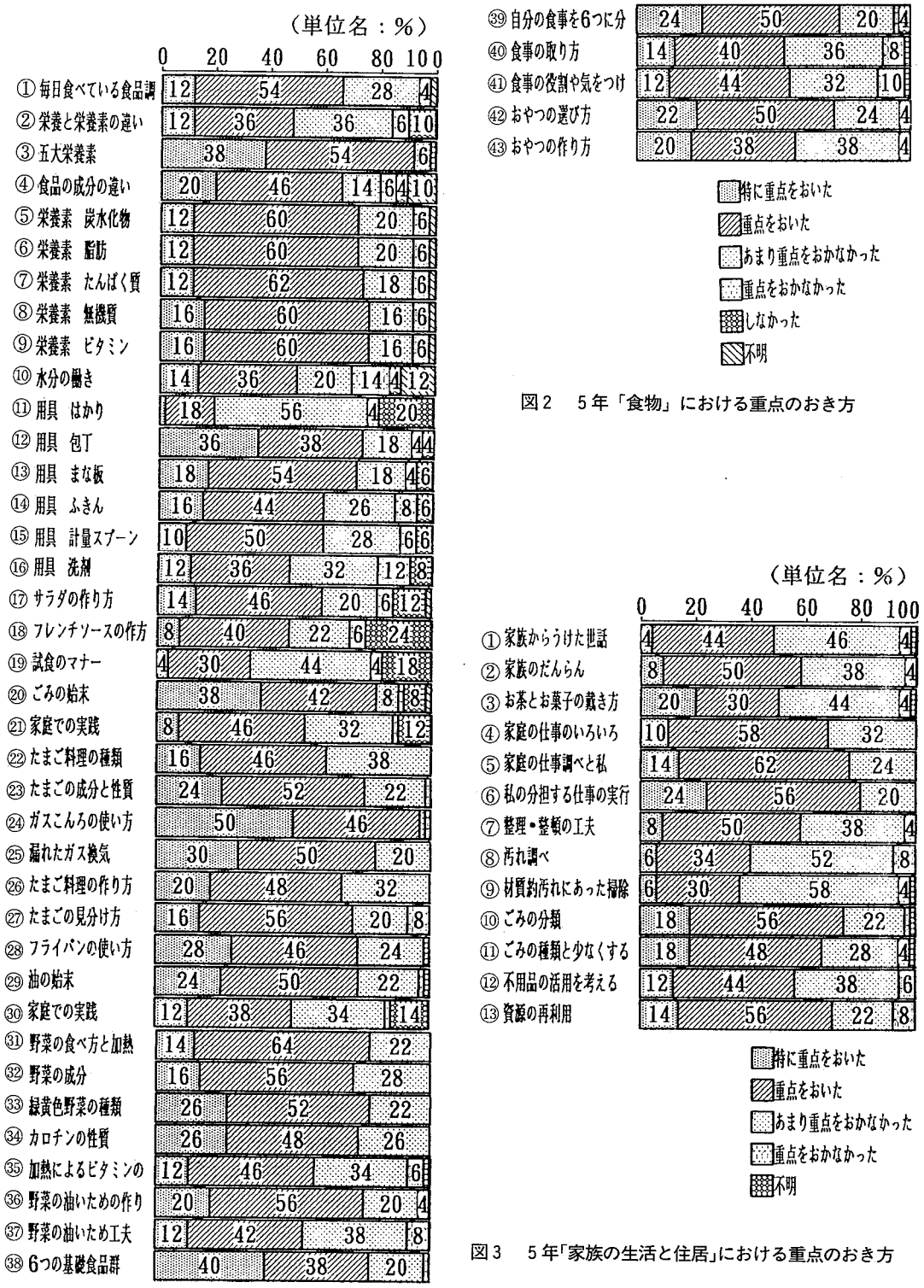


図2　5年「食物」における重点のおき方

図3　5年「家族の生活と住居」における重点のおき方

(3)〈家族の生活と住居〉の学習内容13項目のうち「特に重点をおいた」が40%以上は0である。「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が50%以上は，10項目（13項目に対して76.9%）ある（図3）。家族の生活と住居で「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が80%を越えるものは1項目もない。被服は8項目，食物は4項目あったことと比較すると重点のおき方が大変低いことがわかる。家族の生活と住居に内容が指導しにくいものなのか，重要性を感じていないのか，授業時数が足りないのでそのしわ寄せがきているのか，探る必要がある。

2．6年

(1)〈被服〉の学習内容19項目のうち，「特に重点をおいた」が40%以上は1項目（⑦）(29項目に対して5.3%）である（図4）。「特に重点をおいた」と「重点ををおいた」の合計が50%以上は10項目(19項目に対して52.6%)である。

エプロンづくりに重点がおかれ，カバーづくりはほとんどされていない。エプロンとカバーの製作を両方行うことは時間的に困難であり，個人でどちらかを選び製作するには発達段階上6年生では難しいと考えられ，エプロンづくりのみに重点がおかれているのではないかと思われる。洗濯に関する項目にも重点がおかれている。

(2)〈食物〉の学習内容37項目のうち，「特に重点をおいた」が40%以上は1項目（㉝）(37項目に対して2.7%）である（図5）。「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が50%以上は32項目（37項目に対して86.5%）である。

どの項目にも重点がおかれているが，特に米に関する学習内容と，加工食品に関する知識の学習内容に重点がおかれている。調理に関する技能も重要であるが，日常多くの加工食品を利用するのであるから，それらについて知識として身につけそれを活用していくことが必要とされるだろう。

(3)〈家族の生活と住居〉の学習内容は22項目

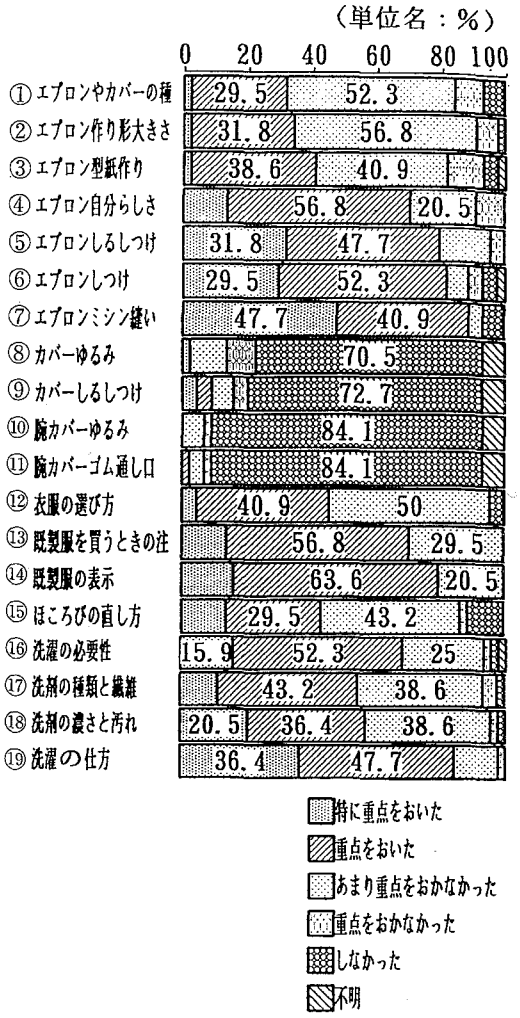


図4　6年「被服」における重点のおき方

のうち，「特に重点をおいた」が40%以上は0である（図6）。「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が50%以上は13項目（22項目に対して59.1%）である。家族と生活よりもプレゼントの製作技術に重点がおかれ，被服内容の総仕上げのような役割をしているように思われる。日光の働きや採光の工夫，照明の仕方の工夫のように住環境の内容にも重点がおかれている。家庭経済に関する学習内容はあまり重点

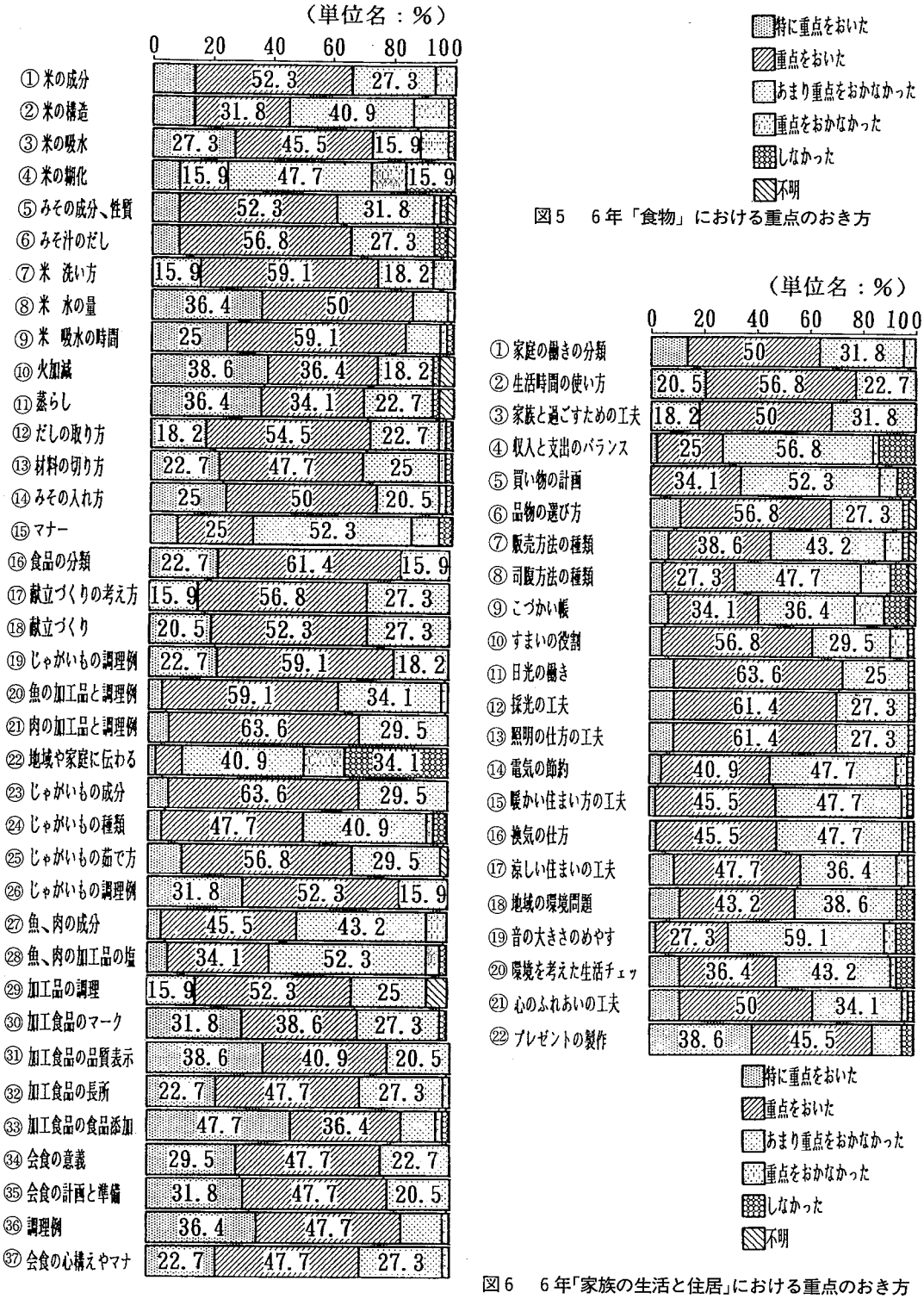


図5　6年「食物」における重点のおき方

図6　6年「家族の生活と住居」における重点のおき方

がおかれていないが，内容的に小学校で扱うには難しいからではないかと思われる。

3．中学校

(1)家庭生活領域の学習内容35項目のうち「特に重点をおいた」が20％以上は6項目（④⑱㉒㉔㉕㉚）(37項目に対して17.1％）ある（図7）。「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が70％を越えるものは7項目（35項目に対して20％）ある。「しなかった」が20％を越えるものは7項目（35項目に対して20.2％）ある。‘家族・家庭生活’(①～⑥）と‘食生活’(⑯～⑱）と‘家庭の経済’(㉒～㉚）の分野のほとんどは「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が60％以上である。一方‘衣生活’(⑦～⑮）と‘住生活’(⑲～㉑）は「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が20％以下がほとんどである。家庭生活領域では‘家族・家庭生活’‘食生活’‘家庭の経済’の分野に重点がおかれていることがわかる。「しなかった」と答えている項目の中では，実習項目はすべて20％を越えており，2割以上の人はこれらの実習をしていない。これは35時間の授業時数では多くの実習を行うことは困難であるということを意味しているのではないだろうか。

(2)食物領域の学習内容38項目のうち「特に重点をおいた」が20％以上は12項目（②⑦⑬⑭⑮⑯⑰㉕㉖㉙㊱㊳）(38項目に対して31.6％）ある（図8）。「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が70％を越えるものは11項目（38項目に対して28.9％）ある。「しなかった」が20％を越えるものは4項目（38項目に対して10.5％）ある。‘食品の栄養素と分類’(①～⑨）のほとんどの項目は「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が60％以上であり食品や栄養についての学習には大変重点がおかれている。米に関する項目（㉔㉕）は米の性質と調理実習ともに重点がおかれている。魚や肉，牛乳については調理上の性質の項目（㉗㉘㉚）にはあまり重点がおかれていないが，調理実習の項目(㉕㉖㉙㉛㉝～㉟)には重点がおかれている。この結果より魚や肉，牛乳については，食品や調理上に性質よりも実習することに重点がおかれていることがわかる。

(3)被服領域の学習内容25項目のうち「特に重点をおいた」が20％以上は3項目（③⑬⑭）(25項目に対して12.0％）である（図9）。「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が70％を越えるものは0である。「しなかった」が20％以上のものは8項目（25項目に対して32.0％）ある。「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が70％以上は0であり，家庭生活領域は7項目，食物領域は11項目と比較すると大変少ない。また，「しなかった」学習内容が20％以上のものを比較すると被服領域は32.0％であり，家庭生活領域は20.0％，食物領域は10.5％であり被服領域はかなり多い。以上のことから，被服領域は他領域に比べて重点がおかれていないことがわかる。この要因としては実習を伴う授業時数の確保が難しいこと，1989年告示の学習指導要領により必修領域ではなくなり選択領域になったこと，他領域に比べて教師が重要と思う認識が低いこと等が考えられる。

(4)住居領域は1996年度金沢市内で住居領域を履修している学校は1校のみであり，今回の調査では集計し分析することはできなかった。

4．その他

上述の学習内容以外に学習した内容を自由記述で記入してもらったものを表1に記す。

小学校では（c)(e)(g)(l)(p）のように授業と学校行事や他の活動と関連させたものがあり，中学校では（r)(u)(y）のようにいろいろな領域のなかで消費者教育を行っていることがわかる。

II　実習内容

1．5年

(1)〈被服〉の実習内容では，小物づくりでは個人のつくりたいものを選ぶ形式が多く，袋づくりではほとんどの学校でミシン縫いでナップザック型のものを製作している（表2）。

(2)〈食物〉の実習内容では卵料理，野菜の油

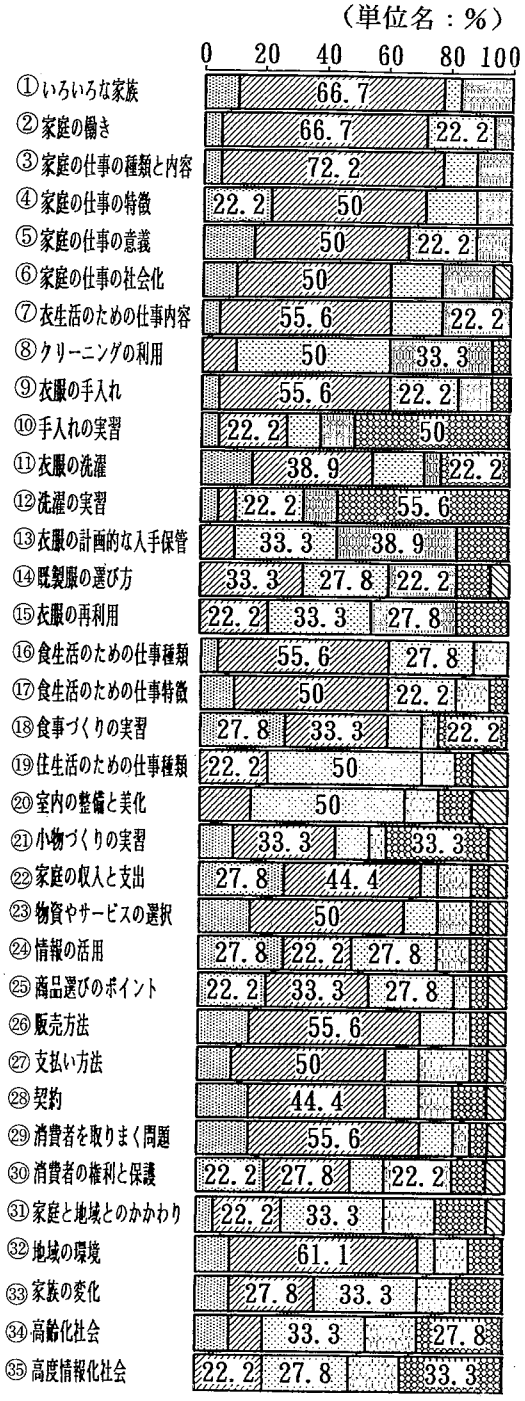
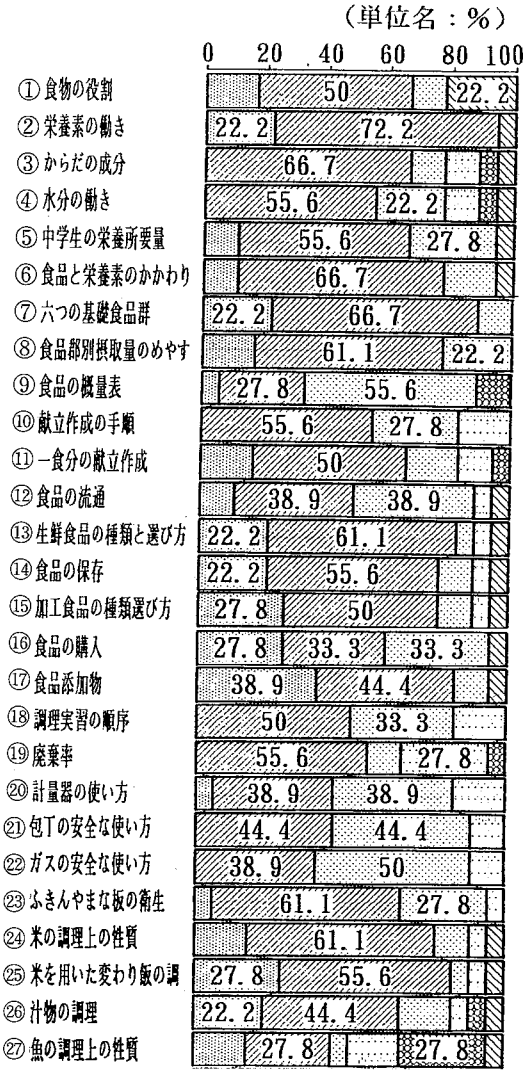


図7　中学校家庭生活領域における重点のおき方



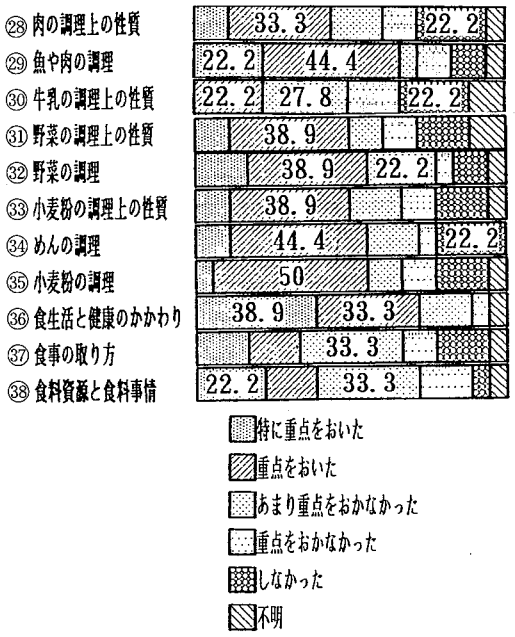


図８　中学校食物領域における重点のおき方

いため，おやつの工夫ともに個人や班の希望で内容を決定している（表３）。

２．６年

(1)〈被服〉の実習内容ではほとんどの学校が洗濯の手洗いと洗濯機の実習を行っている（表４）。

(2)〈食物〉の実習内容はゆでたじゃがいもの調理実習，魚や肉の加工品の調理実習，会食の調理実習の３つである。いずれも班で話し合って内容が決定されることが多く，調理の目的やねらいとずれることがある可能性がある（表５）。

(3)〈家族の生活と住居〉の実習内容は，手作りのプレゼントの実習があり，個人で選ぶことが多く，たくさんの作品例があるが，６年生のレベルにふさわしいと思われるものがほとんどである（表６）。

３．中学校

(1)家庭生活領域の実習内容は手入れの実習では目的によってさまざまな内容があげられている。食事づくりの実習では朝食づくりと昼食づくりが多い。住生活では約70％が実習しており，小物製作，袋物製作などさまざまな内容がみられる（表７）。

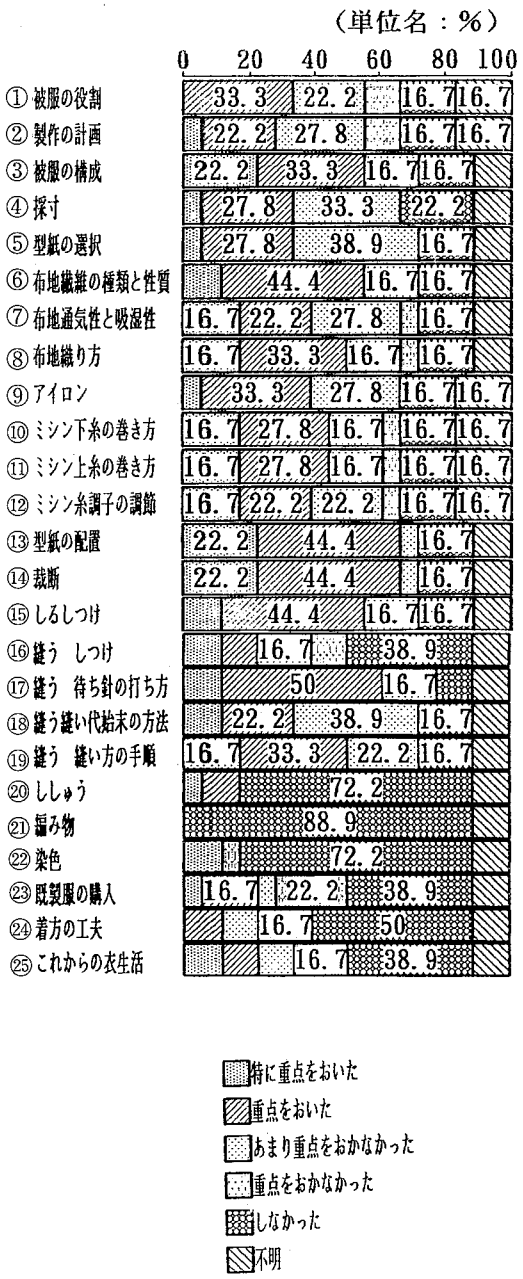


図９　中学校被服領域における重点のおき方

(2)食物領域の実習内容は調理実習では炊き込

表1　調査項目以外の学習内容

1　5年
（a）3学期に今までの技術を生かして「ナベつかみ」(ミシンアイロンプリント）の製作を行った。
（b）トレイの使い方、汚れ方調べ、水ぶき実践　不用品を利用した小物づくり
（c）会食会のために「おやつづくり」の実習を生かしてグループごとに好きな献立を考えさせ作った。
（d）ゆで時間によるたまごの固まり方の違いをグループごとに実験した。
（e）大野っ子みそ作り
（f）調理実習はグループで、予算内で計画をたて、買い物等も自分たちで行った。後にレシート提出
2　6年
（g）卒業制作　トイレロールカバー作り
（h）環境問題
（i）プレゼント製作の一環として学校に台ふき2枚給食時用に繕いの発展としてリフォーム（小さくなったりいらなくなった衣類の再利用、利用の仕方の工夫)
（j）目あてとして「1，2日の留守番ができるように」実習の回数を増やした。理論も大切だが。
（k）給食のパートの方の仕事を見学し、どんなことに気をつけているかを話し合った。残飯はどんなふうに処理しているのか話し合った。
（l）保護者の方を招いてのパーティー。（いろいろなメニュー作りと実習。会食のマナー、招待の仕方、おもてなし）
（m）不用になった服のリサイクル（袋やアームカバー作り）
（n）学校中のトイレのトイレットペーパーホルダーを製作
（o）新しい単元の入る毎に、各自に調べたい事ややってみたい事を考えさせたり、発表させた。
（p）学校行事と合わせ、めった汁、さつまいもの料理の計画を立てみそ汁、じゃがいも料理に替えて行った。
3　中学校
家庭生活（q）衣生活の中で基礎縫いの実習
（r）「消費者として考える」ということで新聞づくり
食物　（s）拒食症、過食症を取り上げビデオ視聴と感想
（t）自分の食生活を見直すために食事記録を3日間
（u）食品の安全性
被服　（x）布の燃焼実験、糸づくり、布織り
（y）表示をつける

み飯，すまし汁，スパゲッティミートソース，野菜サラダが多く，実験実習では調理実習と兼ねてできる小麦粉のグルテンや調理済みのものと手作りのものとの比較などがある（表8）。

(3)被服領域の実習内容は日常着の製作ではショートパンツやハーフパンツが多い。手芸品の製作はほとんどが実習されていない（表9）。

III　学習に望むこと

小学校は中学校へ，中学校は小学校へそれぞれ望むこと・その他を自由記述で書いてもらった。その一部を表10に示す。

1．小学校から中学校の学習に望むこと

小学校から中学校の学習に対しては，表10－1の（a)(b）のように実習の重要性についての記述や，(b)(g）のように実習するものについて自由に選べること，(e)(h）のようにこれからの社会に対応していけるような学習内容，(c)(d)(f）のように小・中・高の関連を考えた学習内容を望んでいることがわかる。

2．その他（小学校）

表10－2の（a)(b）には小学校家庭科の目標について，(c)(d)(e）には実際に指導にあっての問題点が記されている。

3．中学校から小学校の学習に望むこと

中学校から小学校の学習に対しては，表10－3の（a)(c）のように食物と被服領域の基礎的技術の定着について望んでいる。

4．関連性に関する意見（中学校）

表10－4の（a)(e)(g)(h）のように小・中の学習内容の重複について指摘しているもの，(c)(j）のように小・中の合同研究会や情報交換の場を望むもの，(d)(f)(j）のように関連性を考慮していくことの難しさを指摘した意見が記されている。

以上学習に望むことより，小学校の教師は中学校の学習に対して，こどもたちの創意工夫が生かせる場面や問題意識をもって取り組める内容を望んでいることがわかる。実習内容の調査の結果からもわかるが，小学校では実習の内容は個人や班の選択制であったり自由であることが多いが，中学校では学校独自でいろいろな内容が工夫されているが，個人や班の選択という学校はほとんどみられない。そのようなことから中学校でも実習内容を自由にという意見がだされたのであろう。

一方小学校の学習に対しては，食物領域，被服領域とも基本的な技術の習得の徹底を望んでいる。　また，中学校の教員は学習内容について小・中学校との関連に苦労していることがわ

表2　5年「被服」の実習内容

〈小物づくり〉　実習率100%　N=50

1．全員	ティッシュペーパー入れ	(12.0%6人)
2．選択または自由		(82.0%41人)
	ティッシュペーパー入れ	〔23人〕
	小銭入れ	〔22人〕
	ペンケース	〔14人〕
	マスコット	〔10人〕
	メガネケース	〔6人〕
	さいころ	〔6人〕
	ワッペン	〔2人〕
	壁飾り	〔2人〕
	ミニバック	〔2人〕
	タバコケース、コースター はさみケース、ポシェット 小物入れ、テレカケース ポプリケース、袋	〔1人〕
3．未回答		(6.0%3人)

〈ミシン縫いの練習製作〉　実習率94%　N=50

1．全員	小さいマット	(8.0%4人)
	雑巾	(36.0%18人)
	練習布	(30.0%15人)
2．未回答		(20.0%10人)
3．しなかった		(6.0%3人)

〈袋づくり・方法〉　実習率100%　N=50

1．全員	手縫い	(6.0%3人)
	ミシン縫い	(84.0%42人)
	両方	(6.0%3人)
2．未回答		(4.0%2人)

〈袋づくり・方法〉　実習率100%　N=50

1．全員	ナップザック型	(92.0%46人)
	手提げ型	(4.0%2人)
2．個人選択		(2.0%1人)
2．未回答		(2.0%1人)

かる。

Ⅳ　小・中学校の関連性についての考察

第1報で述べた小学校と中学校の学習指導要領・指導書や教科書の比較分析の結果[1)]と本報の調査（以下「調査」とする）結果を対比させながら検討したい。

1．被服

表3　5年「食物」の実習内容

〈卵料理〉　実習率100%　N=50

1．全員	ゆで卵	(14.0%7人)
	目玉焼き	(2.0%1人)
	オムレツ	(2.0%1人)
2．選択または自由		(80.0%40人)
	ゆで卵	〔22人〕
	目玉焼き	〔11人〕
	オムレツ	〔11人〕
	ベーコンエッグ	〔7人〕
	いり卵	〔12人〕
	卵焼き	〔5人〕
	茶碗蒸し	〔2人〕
	厚焼き卵、薄焼き卵、プリン スクランブルエッグ、親子丼 クレープ、チャーハン	〔1人〕
3．未回答		(2.0%1人)

〈野菜の油炒め〉　実習率98%　N=50

1．全員	青菜の油炒め	(18.0%9人)
	三色野菜炒め	(36.0%18人)
2．選択または自由		(44.0%22人)
	青菜の油炒め	〔4人〕
	三色野菜炒め	〔3人〕
	ホウレン草のおひたし、焼きそば ラーメン、おこのみやき ハムと青菜の油炒め	〔1人〕
3．しなかった		(2.0%1人)

〈おやつの工夫〉　実習率98%　N=50

1．全員	おこのみやき	(2.0%1人)
	白玉だんご	(12.0%6人)
	フルーツヨーグルト	(4.0%2人)
2．選択または自由		(80.0%40人)
	おこのみやき	〔11人〕
	白玉だんご	〔12人〕
	フルーツヨーグルト	〔8人〕
	カップケーキ	〔7人〕
	クレープ	〔6人〕
	タコ焼き、ホットケーキ	〔5人〕
	蒸しパン、クッキー	〔3人〕
	ゼリー、フルーツパフェ	〔2人〕
	スウィートポテト、フルーツみつまめ、 焼きそば、ピザトースト、豆腐ケーキ、 モダン焼き、巻き寿司、蒸しカステラ、 アイスクリーム、ドーナツ、タルト、 フルーツ白玉、じゃがいもケーキ、 フルーツポンチ、カナッペ、ドラ焼き、 ポテトチップス、ウインナードッグ、 一口コロッケ	〔1人〕
3．しなかった		(2.0%1人)

表4　6年「被服」の実習内容

〈洗濯・仕方〉　実習率95．5％　N＝44

1．全員	手洗い	(65.9%29人)
	洗濯機	(4.5%2人)
	両方	(25.0%11人)
2．しなかった		(4.5%2人)

〈洗濯・洗濯物〉　実習率95．5％　N＝44

1．全員	体操服	(9.1%4人)
	ソックス	(22.7%10人)
2．選択または自由		(63.7%28人)
	ソックス	〔11人〕
	体操服	〔10人〕
	Tシャツ	〔9人〕
	ハンカチ	〔6人〕
	ブラウス	〔4人〕
	夏制服上着	〔3人〕
	カッターシャツ	〔2人〕
	パジャマ、トレーナー、ゼッケン、タオル、下着	〔1人〕
3．しなかった		(4.5%2人)

表5　6年「食物」の実習内容

〈ゆでたじゃがいもの調理〉　実習率100％　N＝44

1．全員	粉ふきいも	(15.9%7人)
	ポテトサラダ	(2.3%1人)
2．選択または自由 (79.5%35人)		
	粉ふきいも	〔16人〕
	ポテトサラダ	〔13人〕
	カレー炒め	〔7人〕
	リヨン風バター炒め	〔4人〕
	ポテトチップス、コロッケ、大学いも、変わりおでん、シチュー、ふかしいも、フライドポテト、野菜炒め、やきいも、ハンバーグ風、おやき、めった汁、ベークドポテト、スイートポテト、ソテー、オムレツ	〔1人〕
3．未回答		(2.3%1人)

〈魚や肉の加工品〉　実習率100％　N＝44

1．全員	焼きちくわの油炒め	(4.5%2人)
	ソーセージのピカタ	(18.2%8人)
2．選択または自由		(72.7%32人)
	焼きちくわの油炒め	〔3人〕
	ソーセージのピカタ	〔7人〕
	ツナのおやき	〔3人〕
	ハムを主体にした料理、ハムサラダ、かんづめ、ハムの野菜炒め、洋風おでん、手作りウインナー、ツナオムレツ、ウインナーベーコン巻、シーチキンサラダ、ツナサラダ、ウインナーと野菜の炒めもの、ウインナースパゲッティ	〔1人〕

〈会食調理・食べ物〉　実習率100％　N＝44

1．全員	卵サンドイッチ	(6.8%3人)
2．選択または自由		(93.2%41人)
	卵サンドイッチ	〔18人〕
	ハムサンドイッチ	〔18人〕
	ツナサンドイッチ	〔14人〕
	ポテトサンドイッチ	〔7人〕
	フルーツサンド	〔5人〕
	ロールサンド	〔3人〕
	カツサンド、チーズサンド、オープンサンド、ジャムサンド、ミックスサンド、クッキー、ケーキ、ホットケーキ	〔1人〕
	チャーハン	〔2人〕
	和風ハンバーグ、野菜スープ、サラダ、ちらしずし、焼きそば	〔1人〕

〈会食の調理・飲み物〉　実習率100％　N＝44

1．全員	紅茶	(45.5%20人)
	ココア	(2.3%1人)
2．選択または自由		(52.3%23人)
	紅茶	〔9人〕
	ココア	〔7人〕
	ウーロン茶、ジュース	〔2人〕
	スープ、お茶、コーヒー、サイダー、ソーダーフロート、レモンティー、炭酸飲料	〔1人〕

‘既製服の選び方’については，学習指導要領・指導書や教科書では小学校と中学校・家庭生活領域と中学校・被服領域の学習内容はほぼ同じであったが，調査の結果は「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が小学校は70.4％で中学校・家庭生活領域は33.3％，中学校・被服領域では22.3％であった。よって，‘既製服の選び方’は学習指導要領・指導書，教科書の学習内容では重複があるが，調査によると実際の授業では小学校で重点がおかれており，小学校で習得されていると考えられる。中学校では小学校の学習内容をふまえた学習内容が必要である。

‘着方の工夫’については，学習指導要領・

表6　6年「家族の生活と住居」の実習内容

〈手作りのプレゼント〉　実習率97.7%　N＝44

1．全員　小物入れ　（2.3%1人）
　　バッグ　（2.3%1人）
　　クッション　（6.8%3人）
2．選択または自由　（84.1%37人）
　　小物入れ　〔16人〕
　　ティッシュボックスカバー　〔14人〕
　　バッグ　〔8人〕
　　クッション　〔12人〕
　　弁当袋、マガジンラック　〔4人〕
　　エプロン、壁掛け、
　　ウォールポケット　〔3人〕
　　ナベつかみ　〔2人〕
　　アームカバー、お弁当包み、カード、
　　手提げバッグ、ゴミ箱、スモック、
　　車用缶ジュース入れ、座布団、
　　縫いぐるみ、メガネケース、
　　ペンケース　〔1人〕

表7　中・「家庭生活」の実習内容

〈手入れ〉　実習率61.1%　N＝18

1．しみぬき　（4人）
2．アイロンがけ　（2人）
3．ブラシかけ　（1人）
4．その他　（6人）
　　基礎縫い、汚れのつき方実験、
　　花ふきん、合成洗剤の残留実験、
　　界面活性剤の働き、グループ実践
5．家庭実践　（3人）
6．しなかった　（7人）

〈洗濯・洗濯機〉　実習率5.6%　N＝18

1．家庭実践　（1人）
2．しなかった　（17人）

〈洗濯・手洗い〉　実習率16.7%　N＝18

1．家庭実践　（2人）
2．その他　（1人）
　　いろいろな汚れのついた布
3．しなかった　（15人）

〈食事づくり〉　実習率77.8%　N＝18

1．朝食づくり　（10人）
2．昼食づくり　（6人）
3．家庭実践　（2人）
4．その他　（3人）
　　花ふきん（刺し子、ししゅう）、宿題
5．しなかった　（4人）

〈住生活〉　実習率66.7%　N＝18

1．メッセージポケット　（1人）
2．家庭実践　（3人）
3．その他　（12人）
　　キッチンミトンの製作、花ふきん、
　　廃品利用、ウォールポケット、牛乳
　　パックや洗剤の箱を使った小物製作、
　　刺し子のティッシュケース、
　　弁当つつみ、袋物製作、
　　トイレットペーパーカバー、
　　タオルハンガー、
　　学校の草むしりと外掃除
4．しなかった　（6人）

表8　中・「食物」の実習内容

〈調理〉　実習率100%　N＝18

1．炊き込み飯　（17人）
2．すまし汁　（12人）
3．スパゲッティミートソース　（11人）
4．野菜サラダ　（10人）
5．おひたし、カップケーキ　（各6人）
6．ハンバーグステーキ、紅茶　（各5人）
7．わかめとキュウリの酢の物、
　　ホワイトシチュー　（各3人）
8．ジャム　（2人）
9．五目ずし、さつま汁、フルーツポンチ、
　　クレープ、魚の照り焼き　（各1人）
10．その他
　　手打ちうどん、卵料理、ポトフ、
　　アジのフライ、野菜炒め、ムニエル、
　　豚肉のソテー、アジのムニエル、
　　天ぷらうどん、フライドポテト、
　　マリネ、レンコンのだんご汁、
　　自由献立　（11人）

〈実験〉　実習率61.1%　N＝18

1．小麦粉のグルテン　（4人）
2．調理済みと手作りの比較　（3人）
3．緑黄色野菜の加熱変化、着色料検出、
　　野菜の塩による放水　（各1人）
4．その他
　　タンパク質の酸による凝固、食品中の塩分
　　米の浸水時間による味くらべ、
　　ジュースの糖分　（4人）
7．しなかった　（7人）

表9　中・「被服」の実習内容

〈日常着の製作〉　実習率77．8％　N＝18

1．ショートパンツかハーフパンツ	（4人）
2．ショートパンツ	（6人）
3．ハーフパンツ	（2人）
4．その他	（2人）
エプロン、刺し子	
5．しなかった	（4人）

〈縫い代の始末〉　実習率77．8％　N＝18

1．ロックミシン	（10人）
2．ジグザグミシン	（6人）
3．ピンキングばさみ	（1人）
4．その他　三つ折り縫い	（1人）
5．しなかった	（4人）

〈ししゅう〉　実習率16．7％　N＝18

1．ラインステッチ	（1人）
2．キルト	（1人）
3．パッチワーク	（1人）
4．しなかった	（13人）
5．不明	（2人）

〈染色〉　実習率16．7％　N＝18

1．ステンシル	（1人）
2．ろうけつ染め	（1人）
3．絞り染め	（1人）
4．しなかった	（13人）
5．不明	（2人）

〈編み物〉　実習率0％　N＝18

1．しなかった	（16人）
2．不明	（2人）

指導書や教科書では小学校と中学校・被服領域の学習内容はほぼ同じであったが，調査の結果は「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が小学校は45.4％で中学校・被服領域は11.1％であり，中学校ではあまり重点がおかれていなかった。中学校の被服領域の履修状況は18校中16校であり，そのうち2校は手芸製作のみである。ほとんどの学校は被服製作に多くの時間を費やし，既製服の購入や着方の工夫などに重点をおいて学習する時間的余裕がないと思われる。

表10　自由記述の内容

1〈小学校から中学校の学習へ望むこと〉

（a）男女共学で実習、実践を組み込んで指導されていると思いますが、時間を確保して必ず実習をさせてほしいと思います。学校だけでなく、家庭で実践きでる場があり、それを学校で報告できる機会があれば効果が上がると思います。

（b）子供の「作りたい」という思いを大切にしたいので、好きなものをつくれるよう選択の幅を広げてきました。中学校でも続けてほしいと思います。

（c）特に5年生の学習内容量が多く、3学期は教材におわれる状態でこなしました。実生活でほとんど関心もなく、経験も乏しい子にとっての家庭科の技能習得はかなりむずかしい様子でした。限られた時間のなかでの実習はあまり定着がはかれず中学校での学習の基礎とはなりえてないと懸念しています。

（d）小学校の学習の繰り返しではなく、ワンステップアップしたものを実習に取り入れてほしい。中学校で被服の学習や実習なしで終わってしまうこともあります。高校の先生の苦労を考えるとやはり中学校でも被服実習をどこかに取り入れてほしいと思います。

（e）リサイクルや環境汚染の問題と家庭生活での工夫を問題意識をもってとりくめるような内容に。

（f）小学校での家庭科の学習内容が、中学校で生かされているか…特にどの部分を重点的に指導して行けばいいかわかると指導に生かせる。関連ある指導ができればいいと思う。

（g）製作する物についても、これからの子供達のセンスにあった物を押し付けでなく自由に選ばせたら良い。

（h）これからの高齢化社会に向けて、どう生活していけばいいのかを考える視点を含んだ単元の工夫があればいい。（高齢者に敵する接し方、介護、医療などを含んだもの…子どもの達段階に合わせて）

2〈その他（小学校）〉

（a）自立できる生活力をつけていくには何が大切か考えて教師自身がやっていかねばならないと思いしらされた。

（b）手作りの良さや楽しさをかんじられる活動が今の子供達には必要だと感じる。便利な生活の中で特に手をかける時間をかけることを大事にする大人になってほしいと思う。

（c）たまにしか使わない調理器具の衛生的な保存と使い方について。

（d）ミシンの性能は大変よくなっているが、こどもにとっては大変壊れやすく台数も少なく効率よく使うのは難しい。

（e）教科書の指導書の備考らんにいくつかの興味深い実験が載っているが、予備実験をするのが大変なので（学校に家庭をもっているものは一人）裁縫、料理以外はついつい資料調べの学習にしてしまっている。何か、そういうものの講習会、又は、詳しい手引きでもあるとよいと思っています。

3 〈中学校から小学校の学習に望むこと〉
（a）調理実習に関する基本的なところをおさえておいてほしい（包丁の使い方、ガスの使い方などの安全に関すること、ゴミの処理、身支度、フライパンの使い方、調理後の後始末のしつけなど）（生徒の作りたがるものを無差別に実施しているような気がするときがある。）
（b）野菜の切り方、五つの栄養素とその主な働き、米の炊き方、食品調べ
（c）ミシンの使い方（糸かけも）、用具の使い方、基礎縫い（まつり縫い、ボタンつけ、玉結び、たま止め）などの基礎をしっかりおさえてほしい。
（d）待ち針など自分の持ち物は、キチンと管理する。道具を大切に扱う。
（e）製作には時間をかけてると思うが基本は定着していない生徒が増えている。同じことの繰り返しも必要だが、もう少し定着していると製作可能な作品も増えるような気がするが。
（f）既製服の表示
（g）中学校では3年あるようだが実際には1年半しか家庭科はない。その分もっと内容を精選したい。ミシンの使い方などは、もう小学校でできるようにしてほしい。

4 〈関連性に関する意見（中学校）〉
（a）例えば被服で系統だてて考えることができれば、もっと進んだ教材を取り入れることができると思う。ミシンの扱い、基礎縫い、用具の使い方などは小学校にまかせるとか。食物の場合でも同じことがいえると思う。
（b）小学校によってバラバラである為、アンケートを取り、小学校で製作したものすべてを聞いて、中学校での実習内容を決定している。小・中・高と同じ実習教材にならない様にするための方策や手立て（基準）が今こそ論議されてもよいのではと考えている。
（c）中学校の先生方は小学校の内容をしっかり把握し、その上で学習内容の計画を立てていると思いますが、小学校での既習事項が出身学校によって違うため、重複するところがたくさんでているように思われる。小中合同の学習会をもっと充実しなければ、いつまでたっても同じだと思う。特に小学校では、家庭科の楽しさをおしえて欲しいと思う。
（d）家庭生活の実習内容を考えるとき、小学校で作った物と重なることが多く、調理でも同じようなことがあり、困ることがある。ただし、小学校で習ったからもうやらなくてもよいというものではないと思うし、難しいですね。
（e）小学校での学習内容がたくさんあることにおどろいた。それぞれの発達段階に合った内容を取り上げてはいると思うのですが重複もたくさんあるように思う。もう少し内容の精選が必要だと思います。少ない時間の中で広く浅くでは実践力は身につきにくいのではないでしょうか。
（f）小学校の内容と中学校の家庭生活の内容の重複がかなりある。しかし小・中学校で行われている家庭科の状況は担当されている先生や学校の実情により異なると思うので小学校の内容を発展的扱うといっても一概には考えられない難しさがある。
（g）日頃思ってる疑問点ですが、「家庭生活」領域と小学校の学習内容と重複する部分があるのではないだろうか。広く浅く中学校では消費者教育の視点を主とする学習内容にしていけばよいのか。
（h）栄養の学習などで重なる所が多いのでもっと内容を検討すべきでは？
（i）どの領域と指定できませんが、自分の生活に目を向けさせ生きるためにいろいろな仕事があることに気づかせ自分でしようとする動機づけや興味づけが必要だと思う。
（j）すべてのことを時間をかけて学習することは難しいので小・中で何を大切にするかを意志統一できるとよいのだが無理がある。また自分自身も教科書の内容にとどまらず毎年授業を変えている状態なのでどうしていけばよいのかわからない。ただ情報を交換できるといいとは思う。

‘既製服の表示’については，学習指導要領・指導書や教科書では小学校と中学校・家庭生活領域と中学校・被服領域の学習内容はほぼ同じであったが，調査の結果は「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が小学校は79.5％で中学校は61.2％であった。よって，‘既製服の表示’については同じ内容を小学校と中学校で重点をおいて学習していることから，中学校の学習内容は重複を避け発達段階をふまえたものにしなければならない。

‘洗濯’については，学習指導要領・指導書や教科書では小学校と中学校・家庭生活領域の実習内容はほぼ同じであったが，調査の結果は「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が小学校は84.1％で中学校・家庭生活領域は11.2％であった。よって，学習指導要領・指導書や教科書では重複はあるものの，調査によると実際の授業では小学校で重点がおかれており，洗濯’については小学校で習得されたと考えられる。

‘洗剤と繊維と汚れの関係’は，学習指導要領・指導書，教科書では，小学校の学習内容を発展的に中学校・家庭生活領域で学んでいるが，調査の結果「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が小学校では洗濯に関する2

項目については54.6%，56.9%で中学校は55.6%であった。よってこの項目に関しては，段階的に学び得ていると考えられる。

‘衣服の働き’については，学習指導要領・指導書や教科書では小学校と同様の学習内容を中学校でも詳しく学ぶが，調査の結果は「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が小学校では衣服の働きに関する2項目については36.0%，60.0%で中学校は33.3%であった。この項目に関しては，小・中学校ともに重点がおかれていないと考えられる。

私たちをとりまく衣生活環境を考えた時，今後の被服領域では，被服製作に重点をおくよりも‘既製服の選び方’‘着方の工夫’や‘既製服の表示’などが盛り込まれた学習内容が必要であると考えられる。

2．食物

‘栄養素と食品の分類’については学習指導要領・指導書や教科書では小学校と中学校・食物領域の学習内容はほぼ同じであるが，調査の結果は「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が小学校では9項目について70%以上が多く，中学校・食物領域では2項目について94.4%，88.9%である。

‘炊飯についての基礎的事項’については学習指導要領・指導書や教科書では小学校と中学校・食物領域の学習内容はほぼ同じであるが，調査の結果は「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が小学校は9項目について70%以上がほとんどで，中学校は・食物領域では2項目について77.8%，83.2%である。

これらの結果より，‘栄養素と食品の分類’‘炊飯についての基礎的事項’の学習内容は，実際の授業において小学校でも中学校でも重点をおいて学習していることから，中学校の学習内容は重複を避け，発達段階をふまえたものを検討する必要があると思われる。

‘献立づくり’については，学習指導要領・指導書や教科書では小学校と中学校・食物領域の学習内容は一食分ということでは同じであるが，中学校は食品の概量を考えての献立作成である。調査の結果は「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が小学校は72.8%で中学校・食物領域は66.7%である。小・中学校ともに‘献立づくり’に関して重点がおかれ発展的に学び得ると考えられる。

‘加工食品’については，学習指導要領・指導書や教科書では小学校と中学校・食物領域の学習内容は小学校から中学校・食物領域へと内容が発展しているが，調査の結果は「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が小学校では4項目について70%以上で，中学校では2項目について77.8%，83.3%である。よって，‘加工食品’については，小・中学校を通して発展的に重点がおかれ学習していると考えられる。

3．家族・家庭生活

‘家庭の機能や家族の役割’については学習指導要領・指導書や教科書では小学校と中学校・家庭生活領域の学習内容はほぼ同じであるが，調査の結果は「特に重点をおいた」と「重点をおいた」の合計が小学校では4項目について60%以上で中学校では4項目について65%以上である。‘家庭生活の機能や家族の役割’は学習指導要領・指導書や教科書の学習内容で重複があり，調査によると実際の授業でも小・中学校ともに重点がおかれている。よって，中学校の学習内容は重複を避け発達段階をふまえたものが必要である。また，この項目は中学校の家庭科の最初に学ぶ学習内容であり，生徒との人間関係がまだ希薄な時期であり学習の深まりが少ないように思われる。生徒の成長発達段階も考え合わせると1年生で学習するよりも2年生もしくは3年生の方がよいと思われる。それに応じて学習内容を検討する必要があるだろう。

‘家庭の経済’については，学習指導要領・指導書や教科書では，中学校・家庭生活領域は小学校より消費者としての立場からの学習へと発展させているが，調査の結果は「特に重点を

おいた」と「重点をおいた」の合計が小学校では5項目について30～50％で，中学校では6項目について50～70％である。‘家庭の経済’は，小・中学校と発展的に学び得ていると考えられる。

4．住居

調査の結果，実施校が少ないため分析できない。

V　学習課題と指導法の一提案

1報および本報で述べた調査結果の考察により，中学校における学習課題とその指導法について一部を提案したい[2]。

1．家庭生活領域

1報および本報で述べたように‘家庭の機能や家族の役割’については学習内容が小学校と中学校ではほぼ同じであり，調査の結果をみても小学校も中学校もかなり重点をおいて学習している。同じような内容を小5，6年と中1の3年間にわたり，重複して学習していることになる。中学校では小学校の学習内容をふまえ重複を避け発達段階に応じた学習内容が必要であろう。

中学生の発達段階と「家族」の学習について櫛田真澄は「思春期を迎えた中学生は小学校段階と高等学校段階の中間的人間として，自立したいという欲求が芽生え，自立を目指して，家族と向かい合いながら（対立しながら）日々を過ごしている。中学生の時期の特徴として，外部への発言や行動と内面の意識とは，必ずしも一致しない場合が多い。生徒にとって，空気のような存在である家族を認識させ，そのかかわりを考えさせる学習には，講義による指導のみでは不適切である。家族の形態やサイズや機能などを知識として覚えさせるだけでなく，また道徳のような価値観の押し付けにならないように注意しなければならない。教材（題材）が生徒たちの本音の部分とかかわりをもち，心の底から納得できるような教育的価値をもったものであることが，何よりも重要である。」[3]と述べている。また，鶴田・朴木他は「家族」学習について8つの提案をしたうえで，中学校における「家族」学習の困難さについて「これまでの実践の蓄積がないこと，さらに学習指導要領では履修学年を1年生と指定しており，小学生とは異なる，中学生にふさわしい「家族」学習の内容構想がしにくい状況があり，学校現場教師の悩みは大きい」[4]と述べている。

「家族」学習の授業の構想を考えるうえで，家族の実態と意識における多様化や子どもをめぐるさまざまな問題を考慮にいれなければならない。家庭科教育は家庭生活あるいは生活の向上を目指す教科ではあるが，家族学習に際しては，向上を目指すのはあくまで学習者本人であり，その点について安易に教師の側が決めつけることのないよう配慮する必要がある[5]。理想的な家族を考えたり家族への協力や分担を促す規範・徳目を前提にした指導や心情面のみを強調した道徳教育に陥らないよう教科教育としての独自性のあるものとしなければならない。

これらをもとに，家庭生活領域の「家族」学習の構想を表11のように提案する。

2．被服領域

1報[1]および本報で述べたように‘既製服の選び方’は小学校で習得されたと考えられる。私たちをとりまく衣生活環境を考えた時，今後の被服領域では被服製作に重点をおくよりも‘既製服の選び方’‘着方の工夫’‘既製服の表示’などが盛り込まれ，小学校の学習内容を基礎に重複を避け，さらに発展させた学習内容が必要であると思われる。

‘被服製作’に重点をおき多くの時間を費やすことについては，多くの研究者が反対の意見をもっている。櫛田真澄は「被服の学習では，既製品に関する学習を中心に考えながら科学的合理的に衣生活ができるように基礎的な知識と簡単な技術を確実に身につけさせたいと考える。」[6]と述べ，佐藤園は「なぜ，家庭科の被服学習では，被服製作を重視しそれを核とした学習しか展開されないのか。これは，前述したよ

うに，家庭科が他教科には見られない教科の独自性を『実践的な学習による衣食住の技能習得』に求めた点に依拠していると考えられる。しかし，それだけだろうか。多くの家庭科研究者や実践者は，製作重視の被服学習は現代の衣生活を反映していないことを知っている。」[7]と述べている。快適で合理的な衣生活を営むために必要な力は何か，ということが現代の被服領域に求められる課題である。今日では，自分の着たい衣服をイメージし，製作し，そして着ていた時代から，多くの商品としての衣服を選択して着る時代へと移行し，衣服の選択が衣生活の始まりとなっている。今後は，衣服を選択・購入・着用・廃棄というサイクルで考える生活スタイルの変革であり[8]，衣服を選択，購入するためには，被服材料に関する基礎知識や表示の見方，サイズや色について知る必要がある。着用するときには，それに伴う手入れの方法や管理能力や時と場合に適合した被服の着装能力が必要とされる。また，衣服を廃棄するためには資源を有効利用するために適切な行動をとることができなければならない。

これらをもとに被服領域の構想を表12のように提案する。

ま と め

本研究では小・中学校の関連性について教師を対象に調査を行い，第1報の学習指導要領・指導書及び教科書の分析結果と対比させながら学習の系統性について検討した。その結果中学校の学習内容で検討する必要がある内容は，既製服の選び方，既製服の表示，栄養素と食品の分類，炊飯についての基礎的事項，家庭生活の機能や家族の役割であることが明らかになった。

1．被服

‘既製服の選び方’は学習指導要領・指導書，教科書の学習内容では重複があるが，調査によると実際の授業では小学校で重点がおかれており，小学校で習得されたと考えられる。中学校では小学校の学習内容をふまえた学習内容が必要である。‘既製服の表示’は同じ内容を重点をおいて学習していることから中学校での学習内容は重複を避け発達段階をふまえたものにしなければならない。

2．食物

‘栄養素と食品の分類’‘炊飯のついての基礎的事項’は学習指導要領・指導書，教科書の学習内容が重複しており，また実際の授業においても小・中学校ともに重点をおいている。よってこの学習内容に対しては発達段階をふまえた新たな指導法を検討するか，それぞれの学校段階での学習内容を明確にする必要があると思われる。

3．家族・家庭生活

表11　「家族」学習の展開構想案

項目	時間	学習課題
1　私と家族	2	個人の権利や立場を尊重する 家族を客観視する 家族は変化する
2　家事労働と職業労働	3	家事労働の意味を考える 性別役割分業観を問い直す ・男女の家事労働へのかかわりかたの違い ・労働時間と生活時間から見えてくる家族と社会とのかかわり ・賃金の格差はどうしてできるのか

表12　被服領域の学習展開構想案

項目	学習課題	学習内容
1役割	・なぜ私たちは衣服を着るのか。	衣服の働き（保健衛生上、社会生活上）
2選択・購入	・衣服を選択するときにどのようなことに気をつけるとよいか。 ①既製服を選ぶポイントを考える。 ②目的に応じた衣服を選ぶ。	・被服材料に関する基礎知識 （繊維の種類、織り方、性質） ・表示の見方 （組成表示、取り扱い絵表示） ・サイズの見方 ・色とラインの効果的な使い方 ・被服計画
3着用	・より快適に着用するために必要なことは何か。	・被服の構成　（上衣と下衣） ・被服材料に関する基礎知識 （繊維の種類、織り方、性質） ・手入れ 洗濯　洗剤の働き（しみぬき） クリーニングに関する知識 被服製作技能（基礎縫い） まつり縫い、ボタンつけ、 スナップつけ、直線縫い ・保管の方法
4廃棄	・限りある資源を活用するためにはどのような方法があるか。 ③不用になった衣服を利用て製作しよう。	・資源の活用法 リフォーム、リサイクル、レンタル ・被服製作技能（基礎縫い） まつり縫い、ボタンつけ、 スナップつけ、直線縫い、 ミシン縫い

‘家庭生活の機能や家族の役割’は学習指導要領・指導書，教科書の学習内容で重複があり，実際の授業でも小・中学校ともに重点をおいている。家族や家庭生活については指導の難しい分野ではあるが指導法や学習内容を検討する必要がある。また，中学生の発達段階から考えて果たして中学1年生が履修するにふさわしいのかどうかも検討する必要があるだろう。

この結果をもとに学習課題と指導法の一提案をした。これらについては，実践を行いながらさらに検討を重ねていきたい。

引用・参考文献

1）綿引伴子・大浦美雪：小・中学校家庭科における学習課題の系統性（1），金沢大学教育学部「教育工学・実践研究24号」(1998)（印刷中）
2）大浦美雪：小・中学校における系統立てた学習課題の設定，石川県教育委員会　内地留学研究報告書，78～108（1997）
3）櫛田真澄：新版・男女共学家庭科を創る，学芸図書，57～61（1993）
4）鶴田敦子・朴木佳緒留：現代家族学習論，浅倉書店，138（1996）
5）木田淳子：小・中・高校の関連をふまえた指導について家族・家庭生活，日本家庭科教育学会近畿地区会，5（1995）
6）櫛田真澄：男女共学の中学家庭科，家政教育社，167（1980）
7）佐藤園：家庭科授業構成研究，家政教育社，293（1996）
8）柳昌子／甲斐純子：家庭科授業の創造，建帛社，98（1995）